

芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案（例）

日 時	平成〇〇年〇月〇日（〇）第〇校時
学 年・組	〇〇科 第〇学年〇組（男子〇名、女子〇名）
使用教科書	「教科書名」（出版社名）
指 導 者	教諭 〇〇 〇〇

1 題材名 五音音階で音楽をつくろう

2 題材の目標

音階や旋法の違いによる曲想の特徴を捉えて聴き、それらを参考にして自ら選択した音階を用いて短い旋律をつくり、その旋律を組合せてイメージをもって音楽をつくることができる。

3 題材設定の理由

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領の内容、A表現（1）歌唱イ「曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。」（3）創作ア「音階を選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などを付けて、イメージをもって音楽をつくること。」B鑑賞ア「声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを感じ取って鑑賞すること。」イ「音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞すること。」に基づいて構成している。

題材の前半では、五音音階（ペンタトニック）から成る楽曲を鑑賞したり表現したりして、その音階特有の曲想を感じ取ることができるようにする。後半では、興味をもった音階を用いて、その音階に関連のある国や地域からイメージしたことを基に簡単な旋律をつくり、その旋律をペアでつなげたり重ねたりして三部形式の楽曲に仕上げられるようにする。

これらの活動を通して、用いる音階や旋律同士の組合せ及びリズムや速度等の音楽を形づくっている要素によって曲想が変わることを感じ取らせたいと考える。

(2) 生徒の実態 〔略〕

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①様々な国や地域の五音音階から成る音楽に関心をもち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組んでいる。 ②互いの発表を聴き、表現したいイメージと作品の曲想、旋律の組合せや重なりなどについて、講評している。	①前時につくった旋律をもとに、その旋律に音の組合せ方を考えて副次的な旋律や低音の伴奏を付けるなど、表現したい音楽のイメージをもち工夫している。	①沖縄音階の特徴を感じ取り、曲想にふさわしい発声で「ていんさぐぬ花」を歌唱している。 ②音階を選んで旋律をつくっている。 ③旋律のつなぎ方や終わり方などを工夫して曲を仕上げている。	①歌劇「トゥーランドット」の抜粋を、旋律や声の音色に着目して聴き、西洋と東洋の音楽とが融合した魅力を味わって聴いている。

5 題材の指導計画（総時数 6時間、本時は5／6時間）※評価規準は紙幅の都合により略して表記。上表を参照

時	主な学習活動	評価規準、評価方法
1	・雅楽、童歌、沖縄の民謡、中国の民謡等の曲を聴き、それらの共通点を見つける。 ・五音音階は多くの国や地域で使われていることや、明治時代以降に使われるようになった四七抜き音階について知る。 ・黒鍵のみで演奏できる曲を探して弾いてみる。	【関①】〔観察、発言、ワークシートの記述〕
2	・歌劇「トゥーランドット」の抜粋を、旋律や声の音色に着目して聴き、西洋と東洋の音楽とが融合した魅力を味わう。	【鑑①】〔観察、ワークシートの記述〕
3	・「谷茶前」を聴いたり「ていんさぐぬ花」を歌唱したりして、沖縄音階に親しむ。 ・沖縄音階を用いて四分の四拍子2小節程度の旋律を即興でつくり、コール＆レスポンスの活動をする。	【技①】〔演奏、観察、ワークシートの記述、録音〕
4	・雅楽と中国の民謡を聴き、構成音が同じであっても、中心となる音、拍子感やリズム等の働きによる曲想の違いを感じ取る。 ・「〇〇へ行こう！」（〇〇は国名、地名等）の音楽づくりの学習の流れの見通しをもつ。 ・五音音階から一つ選んで、4または8小節の旋律をつくる。	【技②】〔観察、ワークシートの記述、録音〕

5 本 時	・同じ音階を選んだ生徒でペアになり、前時につくった旋律をつなぎ、三部形式の曲をつくる。 ・表現したいイメージに合う低音伴奏や副次的旋律を、つくったり選択したりする。	【創①】〔観察、ワークシートの記述、録音〕
6	・終わり方を工夫するなどして、「〇〇へ行こう！」を仕上げる。 ・各ペアの作品を発表し、表現したいイメージと作品の曲想、旋律の組合せや旋律の重なり等について講評し合う。(演奏の技能については評価しないので、演奏に当たっては技能の優れた生徒や教師が支援したりコンピュータを活用したりすることも考えられる。)	【技③】〔作品、観察、録音〕 【関②】〔観察、発言、ワークシートの記述〕

6 本時の指導

(1) 本時の目標

表現したい音楽のイメージをもち、前時につくった旋律をもとにその旋律に音の組合せ方を考えて副次的な旋律や低音の伴奏を付けるなど、工夫しながら音楽をつくることができる。(音楽表現の創意工夫)

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	準備物等
導入 5	1 既習曲「ていんさぐぬ花」にオスティナートを加えて歌唱する。 2 学習課題と手順を理解する。 前時につくった旋律をつないで、三部形式の曲「〇〇へ行こう！」をつくろう。	・オスティナートを数人に担当させる。(例:「C-G-C-G-」の音で母音唱を繰り返す。) ・主旋律は曲想にふさわしい発声で歌うように促す。 ・曲作りの手順を説明する。 ①二人の旋律を[A]—[B]—[A]の形式に当てはめる。 ②どのようなイメージの曲にするかをペアで話し合い共有する。 ③各自の旋律に伴奏を付ける。 ④二人の作品を合わせて演奏を試みる。	・手順を示した紙又はプレゼンテーション
展開 20	3 ペアで構成を話し合っ音楽づくりをする。 予想される反応例(沖縄音階) [A]: 青く澄んだ広い海をイメージ [B]: 三線を伴奏に、人々が賑やかに歌い踊っているイメージ	・イメージの共有が重要であるため、活動のはじめと途中にも確認させる。 ・記譜が苦手な生徒には、簡易楽譜の工夫やコンピュータによる記譜、録音機器の活用などにより支援し、つくる活動に時間を使えるようにする。 ・事前に生徒の作品を把握しておき、選んだ音階に合う低音の伴奏パターンをヒントとして示す準備をしておく。 ・これまでにつくった旋律の中から、伴奏や副次的旋律として使うように助言する。 ・三人のグループの場合は、二人の旋律を重ねたり、ロンド形式でつくったりすることを助言する。	・ワークシート ・鍵盤楽器・音板楽器 ・リコーダー(各自持参) ・低音伴奏のヒントカード ・録音機器
10	4 いくつかのペアが発表し、曲の構成、旋律の重なり等について話し合う。	・本時では、表現の技能の評価は行わない。演奏については、演奏技能の優れた生徒や教師が支援することが考えられる。	
10	5 表現したいイメージにふさわしい表現を工夫する。	・曲が構成できたら、リズム、速度、強弱などの観点からも、イメージにふさわしい表現を工夫するように促す。	
	評価【音楽表現の創意工夫】〔観察、発言、ワークシート、録音等〕 前時につくった旋律をもとに、その旋律に音の組合せ方を考えて副次的な旋律や低音の伴奏を付けるなど、表現したい音楽のイメージをもち工夫しているか、学習活動3～5で評価する。 〔概ね満足と判断される状況〕 ・二人の旋律を[A]—[B]—[A]の三部形式で構成し、低音の伴奏を付けるなどして、表現したい音楽のイメージをもち工夫している。 〔努力を要する生徒への手立て〕 ・表現したいイメージを確認させ、そのイメージにふさわしい伴奏のパターンを選ばせて音楽を構成させる。 〔十分満足と判断される状況〕 ・三部形式で構成し、低音の伴奏や副次的旋律を重ねるなどして、表現したい音楽のイメージをもち、リズム、速度、強弱等も工夫している。		
終末 5	6 本時の学習を振り返る。	・本時の取組を十分に称賛し、次時は発表し合うことを伝えて意欲付けを図る。	・自己評価カード

※本時ではペアによる活動例を示しているが、個人またはグループでの活動も考えられる。グループで行う際には、個人の作品が生かされるように留意する。